

report 2013

取り組み報告書

～未来のために、子どもたちのために～

アカチヤンホソポ



はじめに

赤ちゃん本舗は、お客様をはじめ、地域社会や従業員から信頼される誠実な企業を目指し、取り組みを行っています。常にお客様の視点で、商品開発や店舗環境づくりに取り組んでいます。安全・安心な商品をご提供するための独自の品質基準を設けた品質管理体制を維持し、より安全で快適な店舗にするための環境を整え、さらに進化を続けています。また、事業特性を活かした子育てを総合的に支援するための情報の提供や、イベントなどの「コト」の提供も積極的に行っています。さらに従業員に向けては、魅力ある職場にするために、やりがいの持てる新しい制度づくりに取り組みました。地域社会や国際社会に対しても、環境問題への取り組み、地域社会との共生、社会貢献活動にも力を入れています。

目次

お客様に向けて	3	社会への貢献	7
●安全・安心な商品とサービスの提供		●環境負荷の低減	
①商品や取引の法令を遵守する体制		①CO ₂ 削減の取り組み	
②お客様の期待に応えるサービス向上		②節電	
③安全で快適な店舗設備		③リサイクル・リユース	
④キッズデザイン賞の受賞		—TOPIX:PLA-PLUSプロジェクトへの参加	
⑤子育て社員の声を活かす社内SNSや ママコミュニティの活動		④その他の取り組み	
●子育て支援活動		●地域社会との共生	
①マタニティスクール		①地域の子育て支援活動	
②プレパパナイトツアー		②地域教育機関との連携	
③その他の子育て支援イベント —TOPIX:「ららぽーとTOKYO-BAY店」の取り組み		●社会貢献活動	
		①ホワイトリボン運動	
従業員に向けて	6		
●働きがいのある職場づくり			
①多様な人材の活用			
②多様な働き方を認め、やりがいの持てる制度づくり			
③能力向上支援			

お客様に向けて



●安全・安心な商品とサービスの提供

①商品や取引の法令を遵守する体制

【商品の品質】

アカチャンホンポでは、安全・安心な商品をお届けするために、法令や業界基準をもとに、独自の品質基準を設けています。たとえば、繊維製品については、「アカチャンホンポ子供安全基準」の中で、フードや引き紐といった安全性に関わる項目を設定するなど、管理を強化しています。その管理については、公的検査機関による生地や製品に対しての品質検査データを見える化し、商品部門、品質管理部門、お取引先、工場がリアルタイムで情報共有できる「アカチャンホンポQCweb」というインターネットシステムを、業界に先駆けて開発し運用しています。さらに、定期的にお取引先と「品質改善会議」を開催し、現状の問題点を参加者が話し合うことにより、品質管理意識の維持向上を目指しています。会議では、実際に起きた事例を展示して共有するなど、再発防止と未然に防ぐ取り組みも実施しています。



お取引先との品質改善会議の様子



↑公的検査機関で当社オリジナル商品の試験を実施しています。写真左から、強度試験の様子、摩擦擦堅牢度試験の様子、ホルムアルデヒド含有試験の様子。



再発・未然防止のための展示

【お客様への約束】

商品の表示、店頭POPはお客様が商品を選択する際の重要な情報です。「お客様に信頼される誠実な企業」であるために、関連法令を守り、お客様の誤認を招かないよう、正確でわかりやすい表示情報の発信に努めています。例えば、FT(フェアトレード)室を設け、全店舗の店頭表示状況の確認や、売場での教育を行う「FTラウンド」を実施しています。この店頭表示チェックでは、実態を客観的な数値で評価し、その結果をもとに店長や副店長と改善に向けた具体的な対策を講じています。また、表示に関する注意点などをまとめた「FT週間情報」を各店舗に配信し、全従業員と最新の情報を共有しています。DMチラシ、カタログ、パンフレットなどの各種広告媒体についても、記載されている商品情報や価格情報が正確であるか、お客様の誤解を招く情報が載っていないかなどを事前にチェックしています。

【お取引先への約束】

公正な取引の徹底は、事業活動の大前提であり、お取引先に対する責務と考えています。「お取引先に信頼される誠実な企業」であるために、FT委員会の設置などの体制を整備するとともに、社員教育の充実を図っています。公正取引に関する社員教育の実施や「商談メモ」などを用いた取引内容の文書化を指導し、優越的地位の濫用や下請法違反といった法令違反や反社会的な行為を防止しています。

②お客様の期待に応えるサービス向上

「年中無休、無料通話ダイヤルのお客様ご相談窓口」(受付時間9時00分～17時30分)を設けて、お客様からのご要望、ご意見、お問合わせなどを承り、迅速かつ誠実に対応しています。さらに、これらお客様の声を関係各部署で共有し、改善を図っています。また、お客様対応支援システムの導入により、お客様相談窓口と、関係各部署、店舗との連携が強化され、お客様からのお申し出に迅速な対応が可能となり、お客様の声を適切に経営に反映するために、いただいた声をデータベース化し、蓄積する仕組みを構築しています。また、「フレンドリー通信」を毎週店舗スタッフへメールで配信し、いただいたお声に基づいた今週取り組むべき内容を共有することで接客向上に努めています。

③安全で快適な店舗設備

安全で快適な売場作りを目指し、店舗におけるさまざまな工夫をしています。商品を並べる棚の角を丸くしたり、陳列用の飛び出したフックの先端をガードするためにセーフティプライスカードを使用するなど、ご来店される小さなお子さまのことを考えた店作りを心がけています。また、従業員の使うハサミやカッターナイフ、ホッチキスの使用を厳しく管理して、より安全な店舗環境となるよう配慮しています。快適なお買物環境のご提供として、2012年に始まったタブレット端末を使用した新しいお買物スタイルをセオ八王子店へ導入しました。2013年11月には「ららぽーとTOKYO-BAY店」にも導入し、スマートなお買物をサポートしています。



●商品陳列棚
棚の角を丸く加工し、当たっても怪我をしないように工夫を施しています。(一部の棚を除く)



●セーフティプライスカードホルダー
フックの先端をプライスカードホルダーを使ってガードしています。



●天井からの配線
通路などの床に配線のでっぱりがないよう天井から配線を取り、引っ掛かって転倒したりすることのないようにしています。



●スマートショッピングコーナー
売場で見たい商品や売場に展示していない商品を専用端末でご注文いただき、最短で翌日お届けします。荷物を持たず、スマートにお買い物をしていただくことができます。(ららぽーとTOKYO-BAY店)

お客様に向けて



④ キッズデザイン賞の受賞

2013年7月、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会主催の第7回キッズデザイン賞を2部門でアカチャンホンポオリジナルの3商品が受賞しました。

～子ども視点の安全安心デザイン 子ども部門～
「ぎゅっとグリップ乳歯ブラシ(安全ガード付)」

～子どもの産み育て支援デザイン 個人・家庭部門～
「Maman d'ange らくらくオールインワンジェル」
「シューズスタンド&ハンガー2本組」



キッズデザイン賞は、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」そして「子どもたちを産み育てやすいデザイン」というキッズデザインの理念を実現し、普及するための顕彰制度です。

【ぎゅっとグリップ乳歯ブラシ(安全ガード付)】

のど突きを防止する「安全ガード」付きの歯ブラシ。自分で歯みがきをするようになった6ヶ月頃からのお子さま向けです。持ち手はお子さまの小さな手でもぎゅっとにぎりやすい太グリップ仕様。



【シューズスタンド&ハンガー2本組】

スタンドとしてもハンガーとしても使用できる、1台2役のアイテム。玄関先やベランダなど、場所を選ばず使用できます。スタンドとして使用する時には、Jの字型のフック部分を上にして立てかけ、ハンガーとして使用する時には、逆さにして土台となっていた部分を物干し竿などに掛けて使用します。スタンドの状態では靴箱に入れば、省スペースでスッキリ収納することも可能です。



【Maman d'ange らくらくオールインワンジェル】

マタニティ期や授乳期に多い悩みである肌の乾燥に着目して開発されたママ用コスメ「Maman d'ange(ママダンジュ)らくらくスキンケアシリーズ」のひとつ。母体に不足しがちな葉酸・鉄分・カルシウムが配合されていて、肌を美しく保つことができます。「子育てで忙しくてもキレイでいたい」というママの声に応える「これ1本でOK」な処方。化学成分であるパラベン・アルコール・鉱物油・防腐剤・合成色素・香料は不使用で、ママや赤ちゃんの肌にやさしい。



⑤ 子育て社員の声を活かす社内SNSやママコミュニティの活動

妊娠・育児中の従業員約50人で構成された社内SNS「育アカチャンネル」で随時アンケートをとり、育児に関わる生の声を聞いたり、「ママコミュニティ」の活動として、社内ママたちの意見を聞く場を設けたり、ケータイサイトでのアンケートから、ママたちの声を商品開発や、よりよいお店づくりに取り入れています。



↑ママたちに集ってもらい発売前の商品について意見を聞いている様子

● 子育て支援活動

① マタニティスクール

マタニティスクールは、ご夫婦で参加していただき、助産師を講師に招いての講義や沐浴実習、パパのマタニティ体験を行うイベントです。初回の開催は1985年。当初から、パパにもご参加いただくことをおすすめしてきました。2012年、開催回数が記念すべき3,000回を迎えることができました。2013年は50店舗で200回を実施(2013年12月末時点の累計開催回数3,236回)。また3月10日に、こどもの城(渋谷区)で行われたイベント「赤ちゃんファミリー応援フェア」(赤ちゃんファミリー応援隊主催)にて、助産師による沐浴体験をイベント内で実施し、ミニマタニティスクールを開催しました。また、ホームページでは、マタニティスクールの内容のご案内をレポート形式で紹介しています。



→ マタニティスクールの様子
写真左上から、沐浴実習、新生児人形の抱っこ体験、マタニティ体験の様子。



<http://www.akachan.jp/event/matarnityschool/index.html>

↑赤ちゃんファミリー応援フェアで沐浴指導を受けているお客さまの様子。

お客様に向けて



② プレパパナイトツアー

パパの育児を応援するイベント「プレパパナイトツアー」。パパが仕事のあとも参加できる時間に、妊婦の身体の変化や妊娠から育児までに必要な商品について学ぶことができます。アカチャンホンポの従業員がそれぞれの担当の専門知識を生かし、店内を説明してまわるツアーです。2013年、52店舗で延べ365回開催しました。また、ホームページでは、プレパパナイトツアーの内容のご案内をレポート形式で紹介しています。
<http://www.akachan.jp/event/prepapa/index.html>



まず、みんなで説明を受けます。生まれてくる赤ちゃんのために、育児を学びたいというプレパパがたくさん！



いよいよツアーがスタート！いつ、どんなものが、何枚ぐらい必要？などなど、赤ちゃんの服について教わります。



みんなでクイズに挑戦！ツアーの途中で色々なクイズが用意されている場合も。パパたちも真剣そのもの！



これでツアーは終了です。



最新のベビーカーを体験！機能や種類が豊富な最新のベビーカーに、パパたちも感心しきり。



妊婦体験ジャケットで疑似体験！大きなおなかを抱えるママの気持ちも体験。とても重くてビックリ！ママはこんなに大変なんですね。

※ツアー内容は一例です。

③ その他の子育て支援イベント

【おはなし会】

お子さま向けイベントとして、「おはなし会」を開催しています。一般財団法人出版文化産業振興財団(JPIC)様にご登録されている読み聞かせボランティアのスタッフが参加されるお子さまの月齢や年齢に合わせた絵本の読み聞かせなどを、実施しています。2013年は、31店舗で延べ314回開催しました。



【ベビーサイン体験教室】

ベビーサインとは、まだ言葉をうまく話せない赤ちゃんと、手話やジェスチャーを使ってコミュニケーションする育児法です。日本ベビーサイン協会認定講師による「ベビーサイン」の基本についてのお話を聞き、手遊びを通じて基礎的なジェスチャーを体験できます。2013年は、52店舗で延べ254回開催しました。



TOPIX ららぽーとTOKYO-BAY店の取り組み



「コトのひろば」スペース

2013年11月に千葉県船橋市にオープンした「ららぽーとTOKYO-BAY店」では、店内の「コトのひろば」でさまざまなイベントを実施しています。「コトのひろば」とは、店内に設置した32㎡のワクワク体験空間です。楽しい体験と学べる情報を提供する専用のスペースとしてイベントの提供に力を入れています。開催するイベントは、おはなし会やベビーサイン体験教室に加えて、他社とのコラボイベントも積極的に導入。「子育てを学ぶ・楽しむ・地域密着型ママの学校」をコンセプトにした体験講座「ママガク」や学研の幼児教室が体験できる「学研ほっぺんくらぶ」などで、バリエーション豊富にコンテンツをご用意しています。イベント内容は、2週間毎に店頭配布の「コトコミュ」の中で告知しています。(HPでも店舗のイベントカレンダーを情報更新。)



「ママガク」が開催する「ベビードانس」イベントの様子



イベント内容の情報提供冊子



従業員に向けて



●働きがいのある職場づくり

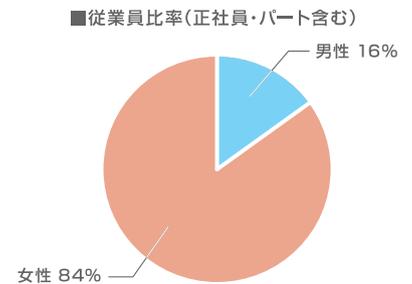
①多様な人材の活用

【女性の活躍】

アカチャンホンポの正社員は約半数が女性であり、従業員全体では80%以上を女性が占めています。このためさまざまな施策を通じて、女性の活躍を推進しています。その一環として、女性スタッフのみで運営する店舗を2012年4月から発足させました。また、女性の役職者は正社員全体の20%を占めており、年々増加し活躍しています。2013年には、執行役員半数が女性となりました。お客様も大半が女性であることから、女性ならではの視点での売場づくりや接客はもちろんのこと、マネジメントにおいても、女性同士だからこそ相談できる活発なコミュニケーションで、問題解決にあたっています。

【障がい者雇用について】

障がいのある方が活躍できる職場づくりに積極的に取り組んでいます。ハローワークからの紹介だけでなく、特別支援学校や就業・生活支援センターとも連携し、障がいの程度に応じて、配属先・業務内容・就業時間などを決定しています。一部では、入社される前の不安を和らげるために、職場体験を通じてさまざまな業務を経験してもらい、十分に能力が発揮できるよう職場への適応状況を把握し、必要に応じて環境改善や現場の責任者へ助言やサポートを行っています。また、業務を容易にするために、読書拡大機や大きなPCモニターを導入するなど、働く環境整備にも積極的に取り組んでいます。



②多様な働き方を認め、やりがいの持てる制度づくり

【公正な評価・処遇】

2011年9月から人事評価制度を一新しました。新たな人事評価制度では、自己評価と上司との面談が加わり、この面談を通じて、本人に評価結果を伝えるだけでなく、「良かった点」「今後さらに伸ばすべき点」「改善すべき点」などを互いに共有して、評価の透明性・公平性を確保するとともに、人材育成につなげることを目指しています。

【ワークライフバランスの実現に向けて】

2012年4月から人事制度を改定し、社員が自分のライフスタイルに合わせた働き方を選択できる社員群制度を導入しました。特に出産や子育て、介護などで仕事と家庭の両立が必要な場合には、転居を伴わない働き方も選択できます。また、パート社員からの社員登用試験も毎年実施し、5年間で27名が正社員となりました。

【育児との両立を支援】

パート社員を含む全従業員が、働きながら育児できるように、育児支援制度を整備しています。特に出産・育児をサポートする企業として、法定水準を上回る処遇にしています。例えば、「慣らし保育」の期間をフォローするため、休業できる期間を1歳到達直後の5月15日まで延長し、育児短時間勤務は小学校4年生まで利用できる制度にしています。2013年12月現在、正社員のうち、育児休業者は32名、育児短時間勤務者は52名で、これは正社員全体の9.5%を占めており、出産・育児を経験した多くの社員が職場復帰し活躍しています。2012年4月には、社員の出産祝金を改定し、最高30万円としました。新たに、子育て中の全従業員を対象に社員割引制度も導入し、子育てを支援しています。また、社内SNS「育アカチャンネル」を立ち上げ、育児をしながら働く仲間同士のつながりをサポートしています。



【立候補制度】

「一人称で仕事をする」という組織風土を構築するため、自らが挑戦したい職務に立候補できる制度を2013年度から開始しました。初年度は74名の社員がやりたい職務に立候補しました。社員自らが能動的に挑戦していこうという強い意欲を持ち、その意欲と可能性を、人事政策と結び付けることでキャリアアップの機会をつくり、よりやりがいを持って働くことができる環境づくりが組織の活性化には不可欠であると考えています。

従業員に向けて



【パートリーダー制度】

働きがいのある職場構築に向けて、2013年9月から、「パートリーダー制度」がスタートしました。この「パートリーダー制度」は、パート社員の方から、教育ツールである「スキルアップ検定」で、必要とされる商品や業務知識を審査し、また年2回の人事評価において、日常業務において、継続して高い評価を受け続けている方が、次のステージへステップアップすることができる制度です。さらに、「パートリーダー職」に認定されれば、正社員・パート社員を問わず、より高い職務につくことも可能です。初回導入時には、56名のパート社員の方が「パートリーダー職」に認定されました。この新たな制度を活用して、パート社員からも、自分の能力・意欲・リーダーシップを 職場で発揮してもらい、より働きがいがある職場作りにつなげています。



パートリーダー認定式の様子



③能力向上支援

【人材育成について】

人材育成の一環として、各種研修を行っています。新入社員などの階層別集合研修だけではなく、現場での研修も重視しています。全従業員が対象の社内検定は、WEBテストや技能検定で業務の習得度を確認し、自らの成長度を振り返る機会となっています。自己啓発のための通信研修も実施。受講費用の一部を会社が補助することで、自らの学ぶ意欲をバックアップしています。また、2013年度に導入されたパートリーダーにも、店舗の中核を担う業務が遂行できるよう研修を実施し、社員だけではなく幅広く、能力向上の施策を行っていきます。



各種研修の様子



WEBを活用した社内検定の様子



新入社員集合研修の様子



新入社員レジ研修の様子

社会への貢献



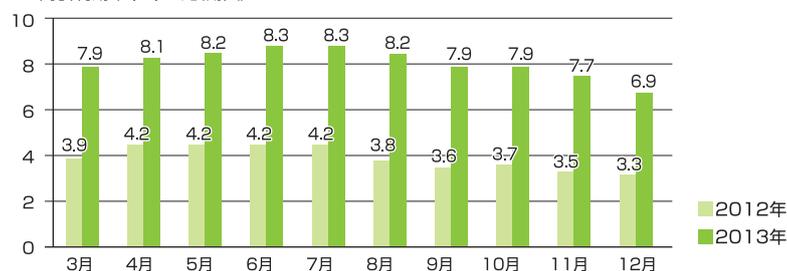
●環境負荷の低減

①CO₂削減の取り組み

【エコ割引の取り組み】

2009年6月から、CO₂削減の取り組みの一つとして、500円以上お買い上げいただいた方を対象とし、レジ袋はいりませんと申し出いただいた場合、2円値引きする「エコ割引」を実施してきました。2013年2月に、「500円以上」という制限を撤廃し、お買い上げ金額にかかわらず、紙袋、レジ袋、ラッピングなど全て辞退されたお客様に「エコ割引」をご利用いただけるようになりました。これにより、レジ袋辞退率は飛躍的にアップしています。レジ前には案内POPとレジ袋不要カードを設置し、利用促進を図って

エコ割引利用率(%)の比較推移



チャレンジ
25



レジ袋不要の提示カード



店頭ポスター

社会への貢献



【「アカチャンホンポECO ACTION」の取り組み】

2013年6月に環境月間の取り組みとして、1ヶ月間、「アカチャンホンポECO ACTION」を実施しました。従業員全員のネームプレートにエコアクションカードを付け、お客様へ「エコ割引」をアピールし、レジでのお声かけを強化する取り組みです。裏面には、「エコ割引」を再認識するための説明や店舗・個人のエコの取り組みにつながる例などを盛り込みました。実施後のアンケート結果には、ネームプレートはあまり見てもらえないという意見もありましたが、自分たちが意識して、お声かけすることが出来たという前向きな声もあり、促進につながったと半数以上が実感しました。また、環境月間という認識・意識の向上や、店舗・個人でのエコに関する取り組みの実施につながったという声も多く聞かれました。



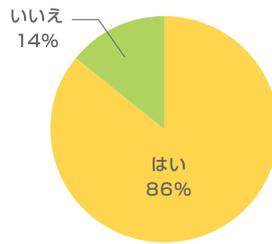
エコアクションカード

《アンケート結果》

Q1.エコ割引の促進につながったか



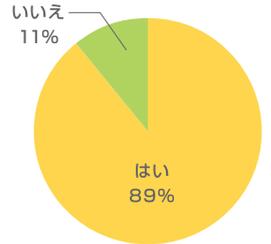
Q2.環境月間を認識・意識できたか



Q3.店舗でエコの取り組みを実施したか



Q4.個人でエコの取り組みを実施したか



② 節電

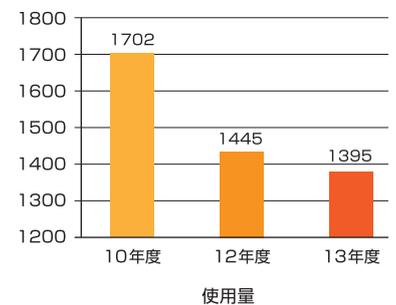
【節電実績】

2011年に発生した東日本大震災以降、慢性的に発生している電力不足に対して、2012年夏(7~9月)に、本社をはじめ、関西電力・九州電力管区の店舗を中心に照明や空調を中心とした節電対策を実施しました。2013年も2012年同様、売場・バックルーム・事務所で出来る範囲での節電を継続して実施し、2010年夏の電力使用量(原油換算)に対し、2013年の同時期、全社の既存店ベースで18.0%の節電を達成しました。(13年の既存店をベースに算出。11年は全国的に強制節電があった為、比較対象外としています。)

【LED化への取り組み】

2012年6月から、浜松宮竹店、草津店、久御山店、西宮北口店の4店舗で、店内基本照明のLED化を実施しました。2013年は、さらに、7店舗のLED化が実現。今後も、新店や自社物件、電力使用量の多い大型店舗を中心に、計画的にLED化を進め節電に取り組んでいきます。現在、LED照明導入店舗の同期間2010年対比で約32%の電力使用量が削減できています。

夏季(7~9月)電力使用量(原油換算kl) 推移



③ リサイクル・リユース

【リサイクル】

店舗で使用する什器類において、一部をリサイクル可能な材質のものに変更しています。



【組布団展示用什器】

壁面上部の展示用什器を従来の木製から段ボール製に変更(2012年の新店から)。一部古紙を使用しており、使用後はリサイクル可能で焼却もできます。



【シューズ展示用底上げ器具】

アクリル製から段ボール製に変更(2012年の新店から)。原料は牛乳パックを使用しており、使用後はリサイクル可能で焼却もできます。

【リユース】

店舗が閉店する際、什器や備品などをリメイク業者に引き渡し、新しい店舗やリニューアルする店舗へ積極的に再利用しています。

TOPIX PLA-PLUSプロジェクトの取り組み



環境省と日本環境設計が進める「PLA-PLUSプロジェクト」にセブン&アイグループとして参加しています。店頭で不要になったプラスチック製品を回収し、それをリサイクルする活動です。アカチャンホンポでは、アリオ西新井店、アリオ上尾店、アリオ川口店、アリオ橋本店、大宮宮原イトーヨーカドー店、ららぽーと横浜店の6店舗で、2013年11月から期間限定で実施しています。

社会への貢献



④ その他の活動

【エコキャップ回収】

従業員の取り組みとしてペットボトルのキャップを集めてNPO法人エコキャップ推進協会に送付しています。800個でポリオワクチン1人分が購入できます。2009年の取り組み開始から、2013年12月末で、210,648個、約258人分のワクチンになりました。

● 地域社会との共生

① 地域の子育て支援活動

都道府県や市町村が取り組んでいる子育て応援事業への登録を実施しています。「子育てにやさしい店」として、おむつ替えスペースや授乳スペース、ミルクのお湯提供など地域の皆さまにご利用いただきやすい売場環境を整えています。

都道府県	登録事業	市町村	登録事業
北海道	北海道赤ちゃんのほっとステーション	旭川市	旭川市こんには赤ちゃんステーション
青森県	あおもり子育て応援わくわく店	青森市	授乳室設置一覧に掲載
群馬県	ぐ〜ちよきパスポート	宇都宮市	赤ちゃんの駅
埼玉県	パバママ応援ショップ	春日部市	赤ちゃんの駅(春日部版)
千葉県	子育て応援チーパスネット	板橋区	赤ちゃんの駅
東京都	赤ちゃん・ふらっと事業	横浜市	ハマハグ
石川県	赤ちゃんの駅(プレミアムパスポート事業)	岐阜市	びよか
長野県	ながの子育て家庭優待パスポート	高槻市	赤ちゃんの駅
岐阜県	ぎふっこカード	飯塚市	赤ちゃんの駅
静岡県	しずおか子育て優待カード		
愛知県	はぐみんカード		
滋賀県	淡海子育て応援団		
京都府	きょうと子育て応援パスポート		
大阪府	まいど子どもカード		
兵庫県	ひょうご子育て応援の店		
奈良県	なら子育て応援団		
広島県	子育て応援 イクちゃん		
愛媛県	えひめのびのび子育て応援隊		
福岡県	子育て応援の店		
佐賀県	子育て応援の店		

2013年12月現在、登録しているのは20都道府県9市区町村で、参加店舗数は65店舗です。



「板橋区 赤ちゃんの駅」



「埼玉県 赤ちゃんの駅」
子育て家族が安心して外出できる環境づくりを進めることを目的としています。



「福岡県 子育て応援の店」



「兵庫県 ひょうご子育て応援の店」

② 地域教育機関との連携

【中学校での体験授業への協力】

助産師と連携し、中学校での体験学習を実施しています。赤ちゃん人形と妊婦体験ジャケットを貸し出し、命の大切さを学ぶ授業で使用していただきました。

2013年7月3日 大田区立大森第六中学校

2013年11月21日 尼崎市立成良中学校



助産師の方の特別授業の様子

【就労生徒の受け入れ】

店舗における取り組みとして、中学生や養護学校の生徒を受け入れ、職場体験をしてもらいました。

【体験型進路学習についての対応】

職場訪問を通して、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を養うことを目的とし、職場研究を行うためのお手伝いをさせていただきました。



生徒さんの体験実習の様子



大阪府立高津高等学校の生徒さんが当社のことを研究発表するために本社を訪問されました。



●社会貢献活動

①ホワイトリボン運動

【ホワイトリボン運動の応援】

2009年5月から、国際協力NGOジョイセフが推進している「ホワイトリボン運動」の趣旨に賛同し、店頭で募金箱を設置するなどの活動を実施してきました。アカチャンホンポは、世界中のママと赤ちゃんの命を守る、ホワイトリボン運動を応援しています。

【赤ちゃんの肌着をザンビアへ届けよう!】

2010年4月から、お客さまの不要になった赤ちゃんの肌着・ウェアをお預かりし、それをザンビアに届ける活動を実施してきました。開始当初は数店舗のみで実施していましたが、2011年11月には全店で実施(受付期間は限定)。2012年8月以降は、20店舗での継続的な活動を始めました。2013年7月からは店舗数を25店舗に拡大しました。2014年1月から同様の店舗で受付を継続します。赤ちゃんの肌着・ウェアは、妊産婦・乳幼児健診の巡回活動などで配布したり、妊婦さんの安全なお産を守るため、ジョイセフによって建設されたマタニティ待機ハウスの利用促進にも活用されています。

- ▶ **第1弾** 2010年4月15日～5月7日(1店舗)
- ▶ **第2弾** 2010年6月21日～7月4日(9店舗)
※約2,000枚の肌着・ウェアが集まりました。
- ▶ **第3弾** 2011年3月実施を中止※東日本大震災の対応のため
- ▶ **第4弾** 2011年7月1日～7月14日(49店舗)
- ▶ **第5弾** 2011年11月17日～11月30日(全店)※一部店舗除く
※約45,000枚の肌着・ウェアが集まりました。
- ▶ **第6弾** 2012年7月18日～7月31日(全店)※一部店舗除く
- ▶ **継続回収** 2012年8月1日～12月31日(20店舗)
※約18,000枚の肌着・ウェアが集まりました。
- ▶ **継続回収** 2013年1月1日～6月30日(20店舗)
- ▶ **継続回収** 2013年7月1日～12月31日(25店舗)
※約18,500枚の肌着・ウェアが集まりました。

※2013年1月1日～6月30日まで20店舗での回収を継続しています。



White Ribbon
世界中の妊産婦を守る
©JOICFP



ジョイセフ
JOICFP

途上国の妊産婦と女性を守る

ホワイトリボン運動とは、国際協力NGOジョイセフが推進している、世界中の妊産婦と赤ちゃんの命を守る運動です。
国際協力NGOジョイセフのホームページ <http://www.joicfp.or.jp/>



ザンビアで肌着を配布する様子

※2014年1月1日～6月30日まで25店舗での活動を継続しています。

【アフリカ・ザンビアにマタニティハウスを贈ろうプロジェクト】

2012年5月から、「アフリカ・ザンビアにマタニティハウスを贈ろうプロジェクト」の取り組みを開始。店頭やインターネットでの募金受付やチャリティワークショップを開催するなどの活動をしてきました。また2012年9月には全国52か所にホワイトリボン支援自動販売機を設置しました。この自動販売機でのお買い上げ1本につき2円がこのプロジェクトへ寄付されます。

2013年5月には、Facebookで「いいね!」チャリティ企画を実施。Facebook投稿内で「ザンビアウィーク」と題し、赤ちゃん本舗広報担当がザンビアでの体験をレポート。その投稿への「いいね!」数を集計し、1いいね!につき10円を赤ちゃん本舗がこのプロジェクトへ寄付しました。この企画は2013年6月に開催されたアフリカ開発会議のTICAD Vパートナー事業として認定されました。

アフリカ・ザンビアでは自宅から保健施設(病院)がとても遠く、いざ陣痛が来ても、お産に間に合わないママたちがいます。結果として自宅など不衛生な環境で出産し、緊急時の対応が遅れ、命を落としてしまうケースが多発しています。マタニティハウス(出産待機施設)があれば救える命があります。アカチャンホンポは、「アフリカ・ザンビアにマタニティハウスを贈ろうプロジェクト」として、国際協力NGOジョイセフとのパートナーシップのもとこの活動を応援しています。

世界中のママが幸せに産出し、健やかに赤ちゃんが育ちますように。「世界のみんなでHappy出産。」を合言葉に、プロジェクトを行っています。



2013年に完成したタニティハウス第2号。アカチャンホンポで集まった募金も建設費用の一部として役立てられました。まだ今後も必要とされる地域での建設や施設の維持などの活動に協力していきます。



Facebook内で実施した企画「ザンビアウィーク」

2012年5月～2013年12月までに店頭・インターネットでお預かりした募金金額 741,521円
(うち44,300円はチャリティワークショップでいただいた募金です。)

Facebook内で実施したチャリティ企画で当社が寄付した金額 50,870円

2012年9月～2013年12月までにホワイトリボン支援自動販売機で集まった金額 945,622円



～未来のために、子どもたちのために～

株式会社 赤ちゃん本舗「取り組み報告書2013」 2014年1月31日

アカチャンホンポのホームページ内「未来のために」では、取り組みについて、内容を随時更新して掲載しています。